

「東山梨教育研究第50号」の発刊にあたって

甲州市教育委員会教育委員長 荻原 更一

この度、東山梨の教育研究の集大成として「東山梨教育研究第50号」が発刊されることに対して衷心よりお慶び申し上げます。第50号という歴史を積み上げた節目の発刊で東山梨教育の成果として重みが伝わってまいり、今まで教育に携わった関係者の皆様に敬意を表します。

昨年3月11日に発生した東日本大震災は、未曾有の大災害になり、未だ復旧・復興にはほど遠く、福島原発事故によってふるさとに帰れない人々が大勢おられます。被災地の子供は、学校も充分再開されず勉学の場や心のよりどころを失った大変不安で不自由な生活を強いられています。国民全体で被災地の一日も早い復旧・復興に力を注ぎ支援しなければなりません。この災害を教訓として防災に対する啓発教育も濃密に実施しなければなりません。

平成18年には、60年ぶりに教育基本法が大きく改定されました。新たに基本項目に加えられたのが「伝統と文化を尊重しそれを育んできた我が国と郷土を愛し国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う」という条項です。

それに伴って新学習指導要領が制定され、24年度から完全実施することになりました。その中の主なものは、学力の向上、道德教育の充実、武道の必修化であります。

特に、道德教育については、公序良俗の欠如、規範意識の欠落、労りの心の喪失などの現在の世相に対して日本の古くから築いてきた伝統文化を守り再構築させることを主眼にしています。日本人の情緒あふれる心を取り戻し、人と人とのふれあい・絆を大切に、謙譲の心や惻隱の情を子供の時から教えることが必要に迫られてきたのです。甲州市では、全国にも先駆けて子供を育てる親のあり方10箇条、子供10の誓いを制定致しました。他人を思いやり、卑怯な行為を慎み、公序良俗を守ることを目指す指標として学校教育の中でその啓発啓蒙に取り組んでいます。

武道については、学校現場の取り組みに苦慮するものがあります。施設・用具が必要であり、且つ指導者が充分であるかどうか問われていますし、慣れない教科で、けがを心配する声を多く聞いています。指導者の確保と十分な準備が必要と感じています。

次ぎに課題になっているのが教師の指導力の評価であります。いつも子供目線にたち、教師同士の連携、保護者・地域との信頼関係など多方面に亘った気配りが求められています。子供を預かり、日夜気の休まらない生活を送る教師にとって負担や気苦労の多いことと思われまふ。各学校で信頼される教師としてそのあり方を目標として取り組んでいるところが多く意を強くしております。みんなに平等に接する先生、いつも前向きで信頼される先生、厳しく愛情を注ぐ先生など児童生徒に対して温かく見守る姿勢が出ています。学校は、勉強し、友達をつくり、規律規範などを養い毎日楽しく過ごすことが基本であります。教職員の皆様には、明日を担う子供達の健全育成に誇りを持って邁進努力されることを期待しています。

東山梨教育と教育関係者のご尽力に敬意を表し、ますますの発展を祈念いたします。